

沖縄県護国神社社報

うむい 六号



終戦六十周年記念号

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「思い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



表紙写真「平和の像」

目次

英霊の言乃葉	3
終戦六十周年に思う	4
沖縄県護国神社本殿遷座奉祝祭	6
(終戦)二十周年記念 秋季例大祭	8
終戦三十周年記念 秋季例大祭	10
終戦四十周年記念 秋季例大祭	12
終戦五十周年記念 秋季例大祭	14
護国神社この一年	16
永代祭申込者御芳名	16
永代祭御供奉納者御芳名	17
(命日の御供奉納者)	17
新参集殿御造宮奉賛金奉納者御芳名	18
社務日誌抄	19
御奉納一覧	19
編集後記	19

英霊の言乃葉

沖縄學徒の遺書

母上様に告ぐ

お母さん、首里の都もたうとう戦の庭と化しまして、自分等も鉄血勤皇隊として軍服姿に身を固め、英米撃滅に邁進したのであります。

沖縄の戦場も、何時かは勝ち戦の時期が来るのですから、母上様には御體を大切にされまして、勝ち戦を待つて居て下さい。

自分の事は、如何なる時にも御心配しないで下さい。そして、小生を御國の為に働かして下さい。自分も良き死場所を見つけて、御國に御奉公するつもりです。

お母さん、自分の働きぶりを見て下さい。九段の御社で、母上様さやうなら、散るべきときに散つてこそ

男と生まれし甲斐はありけり

豊里 陳雄

【昭和六十二年六月靖國神社社頭掲示】

鉄血勤皇隊 豊里 陳雄 命
昭和二十年五月二十八日
沖縄本島兼城村第六十二野戦病院にて
戦傷死
沖縄県立第一中學校三年生 十五歳

終戦六十周年に思う



座喜味 和則
沖縄県護国神社代表役員

今年は大東亜戦争終結六十周年に当り、日本で唯一の地上戦が闘われた沖縄戦及び終戦に至る道をふり返ってみる事も、また意義あるうかと思っております。

昭和十九年三月、沖縄守備の第三十二軍が新設され日本本土或いは支那、満州より部隊が移動してきて、県内各地の学校校舎を兵舎として駐屯、陣地構築が始まる。伊江、北(読谷)、中(北谷)、那覇、宮古、八重山の各飛行場設営に十六才以上の老若男女が徴用され作業に従事、七月には緊急閣議で老幼婦女子の県外疎開が決定され九州方面への疎開が始まる。八月二十二日学童疎開船

対馬丸が鹿児島県石島沖で米潜水艦の魚雷攻撃を受けて一瞬にして千四百八十四名が犠牲となる。(乗船人員千六百六十一名中、救助者百七十七名)十月十日、米航空機千三百九十六機による初の大空襲、那覇市街は殆ど全焼、主な港に停泊中の大型船が沈没の被害を受ける。十二月に入り台湾が上陸濃厚として、武部隊が台湾に転出、其の補充として十六才以上四十五才迄の男子に防衛召集が発せられる。当初は全県に部隊を配備していたが、武部隊の転出で戦力減少のため、中南部に部隊配置替え、北部を住民避難地域とした。

二十年一月、二月には米航空機の来襲頻繁となり戦時体制状態となる。三月二十四日早朝より艦砲射撃が始まる。二十六日米軍が座間味島上陸、翌二十七日渡嘉敷島上陸、両島で住民集団自決の大惨事が起こる。そして遂に四月一日午前八時半、千五百隻余の艦船、五百機の航空機

の支援のもと十八万三千余の米軍が読谷、嘉手納、北谷の西海岸より上陸、直ちに中南部へ向けて攻撃開始する。我が軍は四月二十三日、宜野湾の嘉数陣地撤退、五月十四日には浦添陣地撤退、同月二十二日、第三十二軍司令部は摩文仁へ後退、二十九日に米軍は首里城を占領する。

この時点で我が軍の兵力は半減して、南部糸満地区に後退、兵隊と住民が入り乱れて自然壕などの安全場所を求める混乱状態となる。六月二十三日、第三十二軍司令官牛島満中将、長勇参謀長が摩文仁の洞窟で自決して日本軍の組織的戦闘が終わる。その後も残存兵力の局部戦闘が続けられたが六月三十日、米軍は南部における掃蕩戦完了を宣言した。

三ヶ月間の戦闘での戦死者は、県出身軍人軍属約二万八千五百人、本土出身軍人軍属約六万六千人、一般県民約九万四千人、合計十九万人の多きに及んだ。更に米国は八月六日

に広島に原爆投下。九日に長崎に原爆投下、遂に日本政府は十日にポツダム宣言の受託を申し入れて八月十五日、天皇陛下はラジオを通じて「終戦の詔書」を放送、終戦となった。

沖縄の犠牲によって日本国の国体護持を得る事が出来た事を想う時、われわれは二度と戦争を絶対に起こしてはならない決意を堅持する六十周年にしなければならないと思えます。

沖縄県護国神社についてふれてみたい。各県に護国神社が有るが、沖縄の護国神社は元招魂社と称し、国に殉じた県出身戦死者等をお祀りする社であった。昭和十五年七月一日に沖縄県護国神社と改称して県民に尊崇されていたが不幸にも沖縄戦で焼失し、戦後十四年経過した昭和三十四年四月二十五日に元の境内に七坪余の仮社殿が再建された。当初、沖縄出身戦没者九万三千四百四十六

柱を合祀し、第一回春季例大祭を行った。同年十一月十五日靖国神社権宮司池田良八様が御霊代を捧持して第一回秋季例大祭を斎行、この例大祭で本土出身沖縄戦戦没者六万五千七百十七柱を新たに合祀した。

各道府県の護国神社は郷土出身者のみをお祀りしておりますが、沖縄県護国神社は他道府県出身者も合祀しており、護国神社の中でも特徴的な神社といえます。

昭和三十七年より本格的社殿復興計画が進められ、造営募金活動が開始された。各界からの心なる募金の外に、県内各世帯より五仙募金、県内全学童より一仙募金(当時は弗使)が寄せられて現在の本殿が昭和四十年八月十日竣工、同年十一月十九日に遷座祭、二十日、二十一日に奉祝祭を斎行し、以後毎年、春は四月二十三日、秋は十月二十三日の年二回例大祭を斎行し、今日に至っております。

現在の合祀数は沖縄出身者十一万九百八十柱、本土出身者六万七千六百八十九柱の約十七万八千余柱であります。また、お正月の初詣客は年々増加して昨年は十九万四千人、今年は二十万五千人で県内で一番多いお社と言われており、有難く思っているところであります。

今後の計画としては「創建七十年記念」の平成二十二年に約三百坪の「新参集殿」を造営して、より壮厳・格調高いお社に整えたいと計画しています。同時に那覇市は現野球場を取り壊してプロ野球場の出来る大きな野球場を建設する構想が有る様ですので、これらにマッチする環境整備にも努めて参りたいと思っております。何卒県民の神社として、平和を誓う神社として今後更に一層のお力添えを賜われます様切にお願い申し上げます。



遷座祭 祭典奉仕の遺族青年（昭和40年11月19日）



奉祝祭に参列する御遺族の方々



奉祝祭の奉納舞踊を楽しむ御遺族の方々



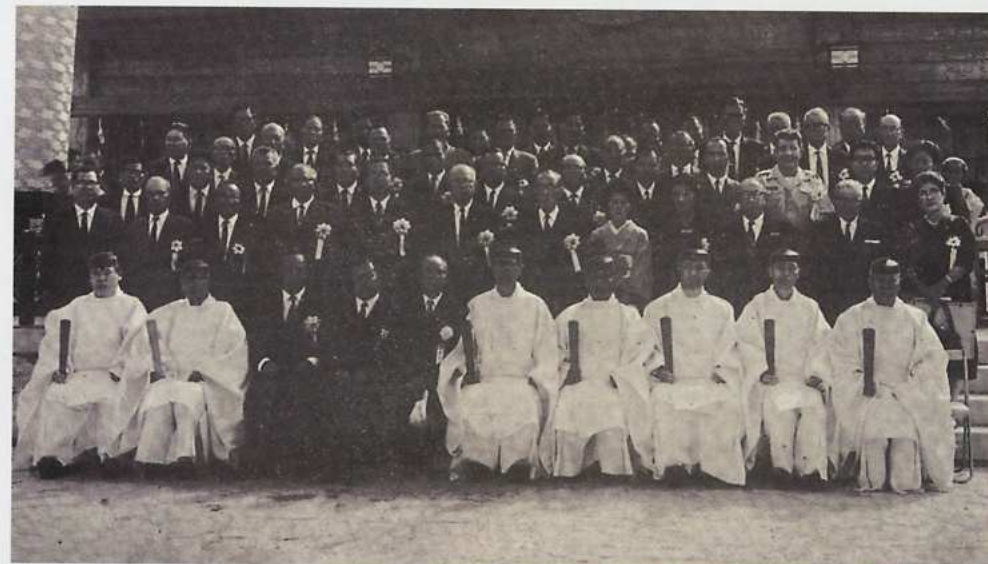
拝殿内の御遺族代表の方々

これまでの周年記念例大祭の様子

沖縄県護国神社本殿遷座奉祝祭

(終戦20周年記念 第7回秋季例大祭)

(昭和40年11月19日、20日)



大祭委員長 具志堅宗精（護国神社復興期成会会長）、斎主 池田良八（靖国神社権宮司）



奉祝祭当日の様子（神社社頭は御遺族方の参列で立錫の余地もない状態であった）



参進の様子



大勢の御遺族方で埋まる神社境内



琉舞の奉納

これまでの周年記念例大祭の様子

終戦30周年記念秋季例大祭

(第17回秋季例大祭)

(昭和50年11月23日)



大祭委員長 具志堅宗精 (当神社代表役員)、齋主 三好邦忠 (当神社宮司代務者)



参進の様子



テント内に入りきれない程の御遺族の方々



御遺族方の受付の様子



神職による清め祓い



慰霊そして平和の祈りを込めて合掌する御遺族方

これまでの周年記念例大祭の様子

終戦40周年記念秋季例大祭

(第27回秋季例大祭)

(昭和60年10月23日)



大祭委員長 長嶺秋夫 (当神社代表役員)、斎主 又吉眞興 (当神社宮司代務者)



参進の様子



お祓いに低頭する御遺族方々



琉舞の奉納



年々少なくなる御遺族方々



御遺族受付の様子

これまでの周年記念例大祭の様子
終戦50周年記念秋季例大祭
 (第37回秋季例大祭)

(平成7年10月23日)



大祭委員長 古堅宗徳 (当神社副会長)、齋主 又吉眞興 (当神社宮司代務者)



神奈川県湖南雅楽会を先頭に社殿へと参進する神職

護国神社この一年

「第四十六回秋季例大祭」

平成十六年十月二十三日、第四十六回秋季例大祭が御遺族、崇敬者約五百人の参列のもと厳粛に斎行された。定刻の午後一時、大祭開始を知らせる太鼓の合図とともに祭典が始まり、齋主又吉眞興宮司の祝詞奏上に続き、大祭委員長座喜味和則、沖



縄県遺族連合会仲宗根義尚副会長がそれぞれ祭文を奏上した。祭典には、靖国神社宮司を始め神社本庁統理、日本遺族会会長ほか全国各地から慰霊電報及び祭詞が寄せられた。

「大祓式」・「除夜祭」・「歳旦祭」の斎行

平成十六年十二月三十一日から平成十七年一月一日にかけて、「大祓式」・「除夜祭」・「歳旦祭」が斎行され、新しい年に向けての祈願が行なわれた。

また、御社殿前に設けられた特設スタジオから、恒例の民放ラジオの生放送が行われた。

今年も御社頭は本神社始まって以来の多数の参拝者で賑わった。

「第四十七回春季例大祭」

平成十七年四月二十三日、第四十七回春季例大祭が斎行された。秋季同様、約五百人の遺族、崇敬者が参列し厳粛に祭祀が執り行なわれた。

祭典では、茶道裏千家淡交会沖縄支部よりお茶の奉納が行われ、また航空自衛隊那覇基地太鼓部による奉納太鼓も行われた。

「戦没者総合慰霊祭」

平成十七年六月二十三日（慰霊の日）、戦没者総合慰霊祭が斎行された。正午の時報に合わせて黙祷がさげられ、御遺族多数が列席する中、祭典が厳粛に執り行なわれた。

「殉国英霊顕彰祭（みたま祭り）」

平成十七年八月十五日正午より、神社、英霊にこたえる会沖縄県本部、沖縄県遺族連合会共催による「みたま祭り」が斎行された。英霊にこた

える会沖縄県本部太田政弘運営委員長の開式の辞、黙祷・国歌斉唱の後、祝詞奏上、英霊にこたえる会沖縄県本部野澤章悟会長の祭文奏上、奉納舞踊などが行なわれ、最後に沖縄県遺族連合会屋比久千代子副会長により閉式の辞が述べられた。

本年みたま祭りは、終戦六十周年の節目を迎え御遺族・各地区遺族会を始め多数の参列があり、厳粛に祭典が執り行なわれた。

「平和の像整備除幕式」

平成十七年十月二日午後五時より、沖縄県遺族連合会による「平和の像」整備除幕式が行われた。この像は平成七年に同会より戦後五十周年事業の一環として当社境内に建立されたもので、今回戦後六十周年事業の一つとして整備工事が行われ、像及び施設全体がかさ上げされ、参



道から像への参拝道や標柱等が新たに設置された。式典には座喜味和則会長を始め、仲宗根義尚、屋比久千代子両副会長他、市町村遺族会の代表者等多数が参列し、新しく整備された平和の像が披露された。

《これからの予定》

- ・平成十七年十月二十三日
「終戦六十周年記念臨時奉幣祭」
- ・「第四十七回秋季例大祭」
- ・平成十七年十一月十五日
「七五三祭」(十一月中受け付け)
- ・平成十七年十一月二十三日
「新嘗祭」
- ・平成十七年十二月三十一日
「大祓式」・「除夜祭」
- ・平成十八年一月一日
「歳旦祭」
- ・平成十八年一月三日
「元始祭」
- ・平成十八年四月二十三日
「第四十八回春季例大祭」
- ・平成十八年六月二十三日
「戦没者総合慰霊祭」
- ・平成十八年八月十五日
「殉国英霊顕彰祭(みたま祭り)」

永代祭新規申込者御芳名

(平成十六年九月一日～平成十七年八月三十一日)

- ・埼玉県北足立郡 菊地 周一様
- ・北海道札幌市 北川 安子様
- ・大阪府大阪市 三木ツネ子様
- ・埼玉県比企郡 福岡 英男様
- ・北海道札幌市 山口 俊次様

〔勇魂の碑永代祭祀申込〕

東京都

岩井 富子様
勇魂の碑遺族戦友会様

永代祭御供奉納者御芳名 (重複掲載有り)

(平成十六年九月一日～平成十七年八月三十一日)

- ・愛知県小牧市 橋本 かや様
- ・沖縄県那覇市 仲村 致慶様
- ・群馬県岩泉町 佐々木フユ様
- ・広島県呉市 渡部 妙子様
- ・岐阜県下呂市 熊崎 つや様
- ・岐阜県岐阜市 箕浦 かと様
- ・愛知県刈谷市 丹村 要二様
- ・沖縄県那覇市 高江洲愛子様
- ・佐賀県杵島郡 千綿 ミエ様
- ・三重県志摩郡 杉木 茂樹様
- ・愛知県豊明市 平野 鈴様
- ・北海道苫前郡 土田 千代様

- ・北海道札幌市 浅田 興屋様
- ・熊本県熊本市 松尾 雪子様
- ・滋賀県大津市 松村まつ江様
- ・北海道松前郡 戸田 愛様
- ・沖縄県那覇市 高江洲愛子様
- ・北海道上磯郡 田島 義勝様
- ・秋田県 秋満純一郎様
- ・東京都武蔵村山市 渡辺 三郎様
- ・岡山県総社市 中村 和則様
- ・愛知県一宮市 後藤 修士様
- ・北海道余市町 木村シズ子様
- ・北海道足寄郡 大竹口重幸様
- ・沖縄県那覇市 与儀 シゲ様
- ・福島県いわき市 渡辺 勝美様
- ・沖縄県那覇市 屋良 朝正様
- ・愛知県一宮市 原 江つ様
- ・愛知県犬山市 吉野 幸雄様
- ・愛知県犬山市 渡辺 光男様
- ・東京都武蔵村山市 久保井淑子様
- ・北海道札幌市 鳴海美栄子様
- ・北海道札幌市 澤田 政枝様
- ・北海道古宇郡 工藤 イク様
- ・千葉県千葉市 吉川 つや様
- ・三重県津市 櫻田スミ子様
- ・北海道札幌市 上田 喬様
- ・岐阜県岐阜市 江崎 明美様

- ・岩手県盛岡市 瀬川 淳様
- ・神奈川県横浜 高津 菊枝様
- ・北海道札幌市 鶴原 正規様
- ・千葉県千葉市 布施 茂様
- ・北海道川上郡 清野 吾郎様
- ・岩手県花巻市 瀬川 タエ様
- ・北海道札幌市 土橋 慶子様
- ・北海道函館市 伊藤 和子様
- ・北海道札幌市 三村 一徳様
- ・北海道札幌市 中嶋美千代様
- ・福岡県大牟田市 小柳 昌敏様
- ・山梨県甲府市 佐藤ひでの様
- ・福岡県春日市 大橋 温子様
- ・奈良県天理市 切田 京子様
- ・愛知県豊橋市 杉浦 文子様
- ・沖縄県石垣市 瀬名波長宏様
- ・熊本県山鹿市 岡部ハツ子様
- ・東京都八王子市 石上順子様
- 卯月 田鶴様他二名
森村恵美子様他一名
- ・大阪府堺市 恵 親也様
- ・神奈川県横浜 松本 敬子様
- ・佐賀県三養基郡 立石 博義様
- ・茨城県取手市 大塚 幸男様
- ・北海道苫前郡 土田 千代様
- ・北海道札幌市 北村 孝子様

- ・石川県小松市 南出 春子様
- ・宮城県黒川郡 菅原 義則様
- ・神奈川県横浜 山本太一郎様
- ・北海道広尾郡 津屋光雄・良恵様
- ・神奈川県横浜 高津 菊枝様
- ・高知県南国市 西原 降稜様
- ・岡山県津山市 石川 好藏様
- ・熊本県熊本市 松尾 雪子様
- ・東京都中野区 佐々木禎助様
- ・東京都板橋区 吉田 義信様
- ・北海道川上郡 村上 義雄様
- ・兵庫県淡路市 荒川 文子様
- ・滋賀県甲賀郡 宿谷 長次様
- ・広島県大竹市 平池勇秀・チヨコ様
- ・北海道札幌市 鳴海美栄子様
- ・愛知県豊橋市 小野よし子様
- ・北海道北見市 十良沢義治様
- ・愛知県稲沢市 川口 日出様
- ・神奈川県横浜 黒木 正敏様
- ・東京都荒川区 川俣 雄弘様
- ・東京都江戸川区 岡田 昌久様
- ・愛知県名古屋 近藤 義文様
- ・三重県伊勢市 外山 とめ様
- ・北海道札幌市 川上ふさ子様
- ・北海道網走郡 成田 静子様
- ・千葉県市川市 松永修巳・利喜子様

- ・北海道江別市 田村 文雄様
- ・岐阜県中津川市 岡山 孝平様
- ・愛知県豊橋市 牧 清様
- ・北海道札幌市 植松 香様
- ・北海道札幌市 阿部 辰巳様
- ・北海道徳島市 田中 静子様
- ・愛知県海部郡 気田 一郎様
- ・愛知県岡崎市 内藤はる子様
- ・沖縄県那覇市 与那嶺文子様
- ・福岡県柳川市 中川小夜子様
- ・北海道河東郡 高橋 仁様
- ・北海道河東郡 村井重男・よし子様
- ・三重県伊勢市 下田 方子様
- ・滋賀県栗太郡 堀池 四郎様
- ・埼玉県浦川市 白田 智子様
- ・沖縄県浦添市 濱松 昭様
- ・北海道札幌市 加藤 勤様
- ・北海道札幌市 浅田興屋・節子様
- ・愛知県津島市 加藤 恵一様
- ・東京都調布市 米沢 務様
- ・東京都調布市 野阪 重信様
- ・北海道函館市 佐藤武司様
- ・京都府八幡市 齊藤 金蔵様
- ・福島県喜多方市 田中 昭二様
- ・群馬県高崎市 深町フジノ様
- ・沖縄県那覇市 川田 江勇様

新参集殿御造営奉賛金奉納者御芳名

(平成十六年九月一日から平成十七年八月末日までの御奉納者)

- 金四百萬円 財団法人 沖縄県遺族連合会様
- 金拾萬円 徳島県阿南市 幸田かね様
- 金五萬円 北海道北広島市 板木一郎様
- 愛知県犬山市 吉野幸雄様
- 金四萬円 岡山県新見市 石川菊枝、中本幸様
- 金参萬円 那覇市泊 (累計六萬円) 平良 元様
- 金貳萬円 愛知県一宮市 後藤修士様
- 東京都西多摩郡 須崎幸子様
- 金壹萬円 千葉県東金市 高山友二様
- (累計参萬円) 埼玉県吹上町 菊地周一様
- 北海道札幌市 北海道札幌市 鶴原正規様
- (累計五萬円) 北海道札幌市 神谷操子様
- (累計四萬円) 那覇市高良 中澤恵子様
- 千葉県東金市 (累計四萬円) 高山友二様

社務日誌抄

(平成十六年九月～平成十七年八月)

- 九月
 - ・二〇日 敬老祭
 - ・二二日 秋分祭
 - ・二三日 修養団捧誠会正式参拝及び神石祭参列・奉仕
 - ・九日 那覇まつり成功祈願祭
 - ・一七日 神嘗祭
 - ・二二日 群馬県遺族会正式参拝
 - ・二二日 岩手県遺族連合会正式参拝
 - ・二二日 産業まつり成功祈願祭
 - ・二二日 宵宮祭、霊簿奉安祭
 - ・二二日 第四十六回秋季例大祭
 - ・二六日 東京都遺族連合会正式参拝
 - ・二六日 関西学院大学社会学部 対馬ゼミ正式参拝
 - ・二七日 兵庫県遺族会正式参拝
 - ・二八日 福島県遺族会正式参拝
 - ・二八日 広島県遺族会正式参拝
 - ・二八日 岐阜県遺族会正式参拝
 - ・二九日 ふくしまの塔慰霊祭奉仕
- 十月
 - ・三日 明治祭
 - ・四日 因伯の塔慰霊祭奉仕
 - ・四日 鳥取県 正式参拝
 - ・四日 山口県遺族連盟正式参拝
 - ・五日 北海道連合遺族会正式参拝
 - ・七日 静岡県遺族会正式参拝
 - ・一〇日 長崎県戦没者慰霊奉賛会正式参拝
 - ・一〇日 青森県遺族連合会正式参拝
 - ・一一日 富山県南方戦没者沖繩慰霊塔奉賛会正式参拝
 - ・一一日 高知県遺族会正式参拝
 - ・一一日 土佐の塔慰霊祭奉仕
 - ・一二日 熊本県遺族連合会正式参拝
 - ・一二日 三重県遺族会正式参拝
 - ・一四日 徳島県遺族会正式参拝
- 十一月
 - ・三日 節分祭
 - ・七日 日本青年遺骨収集団(YJMA)正式参拝
 - ・一〇日 紀元祭
 - ・一〇日 京都府 塔奉賛会正式参拝
 - ・一〇日 山形県神社庁正式参拝
 - ・一〇日 折年祭
 - ・一九日 修養団シルバーボランティア正式参拝
 - ・二〇日 札幌市連合遺族会正式参拝
 - ・二〇日 北海道神道青年協議会正式参拝
 - ・二二日 東京都神道青年会正式参拝
- 十二月
 - ・一日 歳旦祭
 - ・三日 元始祭
 - ・一〇日 成人祭
 - ・二九日 航空自衛隊那覇基地太鼓部新年奉納太鼓
 - ・一日 千葉県遺族会正式参拝
 - ・二三日 天長祭
 - ・三一日 大祓式・除夜祭
 - ・一日 佐賀県遺族会正式参拝
 - ・一五日 奈良県遺族会正式参拝
 - ・一六日 東京都神道青年会正式参拝
 - ・一六日 香川県遺族連合会正式参拝
 - ・一八日 宮崎県護国神社山田勇徳氏参拝
 - ・一九日 茨城県遺族連合会正式参拝
 - ・二二日 新嘗祭
 - ・二四日 埼玉県遺族会正式参拝
 - ・二五日 神奈川県遺族会正式参拝
 - ・二八日 鹿児島県敬神婦人会正式参拝
 - ・三〇日 岡山県遺族連盟正式参拝
 - ・三〇日 和歌山県遺族連合会正式参拝
- 一月
 - ・一日 歳旦祭
 - ・三日 元始祭
 - ・一〇日 成人祭
 - ・二九日 航空自衛隊那覇基地太鼓部新年奉納太鼓
- 二月
 - ・三日 節分祭
 - ・七日 日本青年遺骨収集団(YJMA)正式参拝
 - ・一〇日 紀元祭
 - ・一〇日 京都府 塔奉賛会正式参拝
 - ・一〇日 山形県神社庁正式参拝
 - ・一〇日 折年祭
 - ・一九日 修養団シルバーボランティア正式参拝
 - ・二〇日 札幌市連合遺族会正式参拝
 - ・二〇日 北海道神道青年協議会正式参拝
 - ・二二日 東京都神道青年会正式参拝
- 三月
 - ・四日 海上挺進隊の碑慰霊祭奉仕
- 四月
 - ・八日 皇太子殿下沖繩行啓御安泰祈願祭
 - ・一一日 皇太子殿下沖繩行啓還啓報賽祭
 - ・二二日 宵宮祭
 - ・二三日 第四十七回春季例大祭
- 五月
 - ・三日 憲法記念日祭
 - ・七日 天皇皇后両陛下御渡航行幸啓安泰祈願祭
 - ・一五日 復帰記念祭
 - ・一六日 天皇皇后両陛下御渡航行幸啓奉告祭
 - ・一七日 大府真澄会正式参拝
- 六月
 - ・六日 広島県遺族会正式参拝
 - ・一三日 いわお戦友会慰霊祭奉仕
 - ・一八日 沖繩慰霊友好訪問団正式参拝
 - ・一九日 天皇皇后両陛下御渡航行幸啓奉告祭
 - ・二二日 勇魂の碑慰霊祭奉仕
 - ・二二日 埼玉県遺族連合会正式参拝
 - ・二三日 沖繩戦没者総合慰霊祭
 - ・二七日 神宮研修所正式参拝
 - ・二七日 天皇皇后両陛下御渡航行幸啓安泰祈願祭
 - ・三〇日 しづたまの碑慰霊祭奉仕
 - ・三〇日 大祓式
- 八月
 - ・二日 沖繩県神道青年会終戦六十周年記念事業「沖繩戦跡巡拝並びに沖繩県護国神社参拝」
 - ・一五日 殉国英霊顕彰祭(みたま祭り)

(毎月第一日曜日に月例顕彰祭を斎行)

御奉納いただきました

(平成16年9月～平成17年8月)

寄贈図書・ビデオ

- ・句集「散る櫻」 湯澤 碧水(貞)(著者より)
- ・「祖国はるか?」 旧台湾同胞による慰霊と感謝の集い」 あけぼの会 門脇朝秀(著者より)
- ・「國學の子我征かむ」 國學院大學戦歿院友學徒遺稿追悼集刊行会編 大原康男監修 (発行者より)
- ・「戦時艦船喪失史」 (発行者より)
- ・写真集「北千島」 池川信次郎著 三好 誠監修(著者より)
- ・「赤腕の世直し」 名護 博著(天久、与那覇さまより)
- ・「日本人が忘れてしまった「日本文明」の真価」 清水馨八郎著(木村久子氏より)
- ・「蘇れ日本」 岡田幹彦著(木村久子氏より)
- ・「D.V.D」渡部昇一、中川八郎出演(木村久子氏より)
- ・「戦争プロパガンダの嘘を暴く」 三好 誠著(著者より)
- ・「愛知県下英霊社忠魂碑等調査報告書 第四輯」 愛知県護国神社編(発行者より)
- ・「神社本廳教學研究所紀要」(沖繩県神社庁より)
- ・「乃木將軍揮毫の碑」 中央乃木會(乃木神社より)
- ・「財団法人 沖繩県傷痍軍人会創設五十周年記念誌」 沖繩県傷痍軍人会編(発行者より)
- ・「全陸軍甲種幹部候補生制度史」(発行者より)
- ・「全陸軍甲種幹部候補生制度史編集委員会編(発行者より)
- ・「公式ガイドブック」対馬丸記念館 (財団法人 対馬丸記念会より)

御奉納品物

- ・正面幕 (株)ジーマ、ジーマックス
- ・正月参拝者用御神酒二樽 (株)ジーマ、ジーマックス
- ・樽酒 龍華会
- ・額入国旗 三木 京三様 愛知県豊岡市
- ・日本酒 黒木 秀一郎様 沖繩県那覇市
- ・玉串料御奉納者名
- ・沖繩県吟剣詩舞道総連盟

大日輪の会様

御奉納ありがとうございました。

写真で見る護国神社この一年



正月元旦の様子



「終戦60周年記念・平和祈願祭」の様子



第47回春季例大祭の様子

編集後記

・ 沖縄県護国神社社報「うむい」第六号をお届け致します。
・ 今年は終戦六十周年の節目の年にあたり、春秋の例大祭を始め、六月二十三日の慰霊の日に斎行された「戦没者総合慰霊祭」や八月十五日の「みたま祭り」には県内外から例年以上の方々の参列を賜わり、厚く御礼申し上げます。
・ 今回は終戦六十周年記念号と致しまして、本神社が再建された昭和四十年の終戦二十周年記念例大祭から、終戦五十周年記念例大祭までを当時の写真から振り返ってみました。
・ 改めて六十年という歳月を実感するとともに、「沖縄戦」という悲惨な出来事を風化させてはいけなさと肝に銘じた次第でございます。

発行 平成十七年十月一日

発行所 沖縄県護国神社

〒900-0026

沖縄県那覇市奥武山町四四番地

TEL 〇九八-八五七-二七九八

FAX 〇九八-八五七-七九一七

編集担当 加治 順人

印刷所 (有)うるま印刷